

# さようなら原発 越谷連絡会

会報 No.80

●発行 さようなら原発越谷連絡会 編集委員会

●連絡先 〒343-0023 越谷市東越谷1-5-17 TEL&FAX 048-962-8052 <http://sayonarakoshi.jimdo.com/>  
〈郵便振替〉0150-8-766809 さようなら原発越谷連絡会

さようなら原発越谷連絡会は、第3金曜日に、越谷駅前で脱原発のための集会とパレードを行っています。

第3金曜日の越谷独自行動（3金脱原発越谷行動）は、越谷駅東口駅前広場に18時集合・開始で、どなたでも発言自由のアピールタイム。歌や楽器でのアピールもOKです。こののち、越谷駅

までもどる周回パレードをしています。誰でも、どなたでも参加していただける集会・パレードです。ぜひ、ご参加ください。

お問い合わせは080-1229-3661（飛山）/080-5670-7117（増田）/090-4010-1334（石山）まで

## 第13回 さようなら原発 in 越谷 大集会とパレード 寒空の下、3月2日に開かれた集会の報告です。



最終的に80人が集まった越谷駅東口広場。右は元気な司会で集会を盛り上げてくれた山田裕子さん。



河田隆司さんの開会挨拶でスタート。



ひとりで10の楽器を！ 佐藤周平さんのワンマンバンド。



いつも感嘆。手巻のコマ芸を披露する「げんこつ」の子どもたち。

3金集会の集合場所は越谷駅東口駅前広場。午後6時。オープニングライブ5時半。

1 次の「さようなら原発3金行動」は4月19日(金)、5月17日(金)です。

3月2日午後、すごく寒い中でしたが、越谷駅前広場で約80人が集まり開かれました。越谷では毎月、第三金曜日ここに集まり、「原発再稼働に反対する『三金デモ』」を行っていますが、3月は東京電力福島第一原発事故発生後13年目に当り、「東海第二原発再稼働阻止首都圏連絡会の第11波一斉行動」に合わせての繰り上げ開催となりました。

いつも元気のいい山田裕子さんの司会で進められ、最初に実行委員会を代表して、河田隆司さんが「福井地裁で原発の再稼働を認めなかつた権利元裁判長が著書で『東京電力福島原発事故は、たまたま運よくあの程度の被害で済んだが、原発は辞めなければならない。地震国日本には原発はいらない』と書いておられる」と強調した。

次いで、パフォーマンスで会場の雰囲気を和らげたいと、昨年に続き佐藤周平さんのワンマンバンド。一人で十種類もの楽器を操り、歌も

歌う。これには参加者一同拍手喝采。この日のメインスピーチは東海第二原発首都圏連絡会の志田文広さん。「日本原電の東海第二原発は福島原発事故の際には、あと71cmの高さで防護壁を超えるまでの津波が押し寄せ、その時は、非常用発電装置1台が使えなくなり、大事故になる一步手前でした。いま、その防潮堤の工事をしているが、その工事でも、鉄筋コンクリートがしっかりと打設されていないとか、鉄筋が変形しているとか、地下の岩盤部分まで届いていないという。しかも、日本原電はこの欠陥工事を昨年の4月に分つていながら、10月に共産党が発表する日まで公表せず、隠し通していました。こんな危険な東海第二原発は絶対に再稼働させてはいけません。この東海第二原発は首都圏に一番近く、しかも運転開始後44年の老朽原発です。何としても廃炉に追い込みたい」と強調されました。

この後は、今年も「学童げんこつ」の子供たちが語ってくれたゲストスピーカー志田文広さんと片岡明日花さん

能登半島地震の突きつけた現実

2024.3.29

## 志賀原発 地震で道路寸断 避難不能に 「原発ゼロ社会」の「草の根運動」を全国から

1月1日に起きた能登半島地震では、道路の寸断で8日間の孤立、空港は10日間の閉鎖、海路も無理。屋内避難も家屋の倒壊、停電、断水もあり、食料も調達できず、避難計画が全く機能しないことが明白になりました。震度5の揺れに襲われた志賀原発は、変圧器の損傷、2万リットル以上の油漏れ、外部電源が一部使えないなどのトラブルが続出しました。なぜ政府は、志賀原発を廃炉にしないのか。やっぱり、裏金なのでしょうか。日本原子力産業協会から自民党への献金額が10年間で70億円超に上るのが明白になりました。

原子力明るい未来のエネルギー横断幕で、国民を洗脳し、神話化した原発に、「さようなら」をして、自然エネルギーの活用に大転換する政治の実現こそ、国民の命と健康、財産を守ることにつながると思います。

（越労連議長 河田隆司）

志賀原発の避難ルートと能登半島地震による通行止め箇所



※ X印は通行止め箇所を示している。

能登半島地震と志賀原発をめぐる新聞報道から



甘い想定

能登半島北側の断層活動  
今回「150キロ程度」  
昨年5月 4連動で96キロ

能登半島地震では半島北側の沿岸部の断層が150km程度にわたって動いたと言われている。では、半島の南側に志賀原発を立地させた北陸電力は、あの地域で断層活動をどう対応してたか。原発に致命傷を与えかねないのが断層活動に伴う揺れなどだ。見えてが甘いと安全面が揃らぐ。そんな想定から立地時以来の経過をたどってみると、不信を募らせる経緯が浮かんでくる。

（山田裕一郎、木原伸介）

## 女川原発2号機が9月再稼働の報道

2月20日、「東京新聞」ほかのメディアは、6月の東北電力の事故対策工事完了予定後の9月に女川原発2号機の再稼働を想定していることを報じた。女川原発は福島第一原発と同じ構造の沸騰水型の軽水炉で、再稼働すれば東日本大震災被災地の原発では最初の再稼働となるという。能登半島地震によって改めて原発の安全性と避難の問題がクローズアップされている。女川原発、東海第二原発始め、各地の原発の動きを注視していく。再稼働阻止。稼働原発運転停止。

STOP! 女川原発2号機再稼働。全ての原発廃炉へ。

「さようなら原発3金行動」はプラカードや楽器の持参大歓迎。どなたでも参加できます。越谷駅東口駅前広場に午後6時集合。途中参加でも大丈夫です。仕事帰りに合流も大歓迎！

## 「地震の国に原発いらない」の声を広めよう！ 事故から13年、3.11集会の報告



「天を恐れよ」……能登現地からの参加者のスピーチ。(東電本店前)

● 東電本店前の追悼と抗議行動

「天を恐れよ」「命を愚ろうするな」「逃げられない」という現実の重さ。(志賀原発に反対する命のネットワーク 藤岡さん)

「大地震が発生しても原発で大事故が発生しても彼ら(自民党前近代的世襲政治家内閣)は自分の家の利益しか考えない。人間の逃げ場も核廃棄物の捨て場もないのに再稼働の欲望。新增設と軍備増強:(中略):危険な政府を倒し平和な社会を取り戻そう! さようなら原発本番。(鎌田慧さん)

原電前参加者約185名、東電前参加者約275名であった。

(荒木正子)

● 東海第二原発動かすな! 白本電本社前での集会と抗議行動

「天を恐れよ」 「命を愚ろうするな」 「逃げられない」という現実の重さ。(志賀原発に反対する命のネットワーク 藤岡さん)

「大地震が発生しても原発で大事故が発生しても彼ら(自民党前近代的世襲政治家内閣)は自分の家の利益しか考えない。人間の逃げ場も核廃棄物の捨て場もないのに再稼働の欲望。新增設と軍備増強:(中略):危険な政府を倒し平和な社会を取り戻そう! さようなら原発本番。(鎌田慧さん)

2011年3月11日から13年、原発の廃炉は進まず事故の悲惨な状況は続いている。今年の元日には能登半島大地震が起き、志賀原発は停止していたので大事故は免れたが多くの犠牲者が出てしまった。そんな中、政府と電力会社は停止中の原発を動かそうとしている。私達の命や安全を無視する政府や会社に「原発動かすな」の声を再び広めて反対していこう! 私自身元気を頂いた集会であった。

## ● さようなら原発越谷連絡会

# 総会と講演会

**6/22 土**

13:30 ~ 16:30

越谷市中央市民会館  
5階2・3会議室

●講演会講師は交渉中。

13:30 受付開始  
14:00 講演会  
16:00 総会  
16:30 閉会

● 総会は  
16:00 から



東京・代々木公園で開かれた「3.20 さようなら原発全国集会」。悪天候の中6000名が結集。越谷からも連絡会会員8名が参加(写真右)。「フクシマを忘れない! 原発再稼働を許さない!」のコールが鳴り響いた。

3.11の福島第二原発の過酷事故から13年、3月16日には福島市飯坂町で「2024原発のない福島を! 県民大集会」が、23日には「STOP! 女川原発再稼働 さようなら原発全国集会in宮城」が仙台市で開かれ、全ての原発廃炉、再稼働阻止。稼働原発運転停止の声をあげた。

ちによる「コマ回し」の曲芸披露。「背面綱渡し」「ひもかけ上げ」「大車輪」「この指とまれ」等、4人が入れ替わり立ち代わりで、楽しそう。失敗もありましたが会場からは大きな拍手。普通の「コマ回し」では1200円程の重たい「コマ」を使っている軽いコマを使うので、それだけ難しいとのことでした。

最後は元気な二十歳の学生、片岡明日花さんがスタンドマイクの前に立ちました。彼女は「大人はもっと政治について声を上げて、楽しい人生を送つてほしい」と言い、「若者たちにも原発など、今の政治の変化に希望を抱いている者があることを知つてほしい」と訴えました。その後、彼女はMISIA「アイノカタチ」を一曲唄つてくれました。

閉会あいさつの後、宣伝カーを先頭に東越谷第二公園まで「地震の国だ。原発無くそう」等とシュプレヒコールしながらパレードを行いました。当日のカンパ金は2万7460円。ありがとうございました。以上、報告とします。(飛山幸夫)

最後は越谷駅前広場から東越谷第二公園まで、元気なデモで締めくくり。

### ① 東海第二原発緊急事態における経済被害想定 / 上岡直見氏意見書(尾池弁護士)

原子力災害に起因する経済被害は極めて甚大である。たとえば福島原発事故に関して日本経済センターの試算では、40年間で35兆~80兆円であり、また、東海第二原発(出力110万kW)事故の場合では、計665兆円(経済活動398兆、宅地建物158兆、企業固定資産毀損109兆)という膨大な損害が想定される。そしてかかる経済的被害により、住民も日常生活を放棄せざるを得ず、「生活に関する利益」として憲法上の人格権が侵害される事になると主張した。

### ② 能登半島地震を受けて本件避難計画の不備・欠落 (大河弁護士)

被害地各地の家屋、道路他の被害状況を写真を提示して説明。ちなみに、珠洲市の泉市長によれば、市内の6000世帯のうち、9割が全壊または、ほぼ全壊で、壊滅的被害であるとの報告(1月2日の県対策本部会議)。地震災害においては、自宅での屋内避難は不可能であり、また、避難道路は寸断さ

### ③ 火山事象に対する影響評価の不備・欠落 (中野弁護士)

火山灰による原発非常用電源のディーゼルエンジンへの目詰まりによる損傷による系統機器の機能喪失を始めとして、原発では異常な放射性物質の放出に発展しても、公衆に対する放射線被害を回避できるまでの規制が必要と指摘ほか。(飛田恵悟)

※次回口頭弁論は6月21日14:00 東京高裁101法廷の予定。

- 2011年に始まった日本原子力発電東海第二原発の安全性に問題があると、住民らが運転差し止めを求め提訴。
- 2021年3月18日、水戸地裁(前田英子裁判長)で原発の運転を差し止める判決。
- 被告の日本原電は控訴。
- 請求棄却された30キロ圏外の原告らも控訴。
- 控訴審の裁判官が以前の原発関連訴訟の際、被告である国側の代理人を務めていた経緯が明らかになり、裁判官の交代を求める「忌避」を申し立てた。
- 2023年7月11日控訴審第1回口頭弁論(東京高裁)。
- 2024年2月20日第2回口頭弁論。



開廷前、東京高裁門前での集会。

## 東海第一原発運転差止控訴審

2月20日、控訴審第二回口頭弁論が、東京高裁大法廷であった。開廷前に、100名以上の傍聴希望者が、41席の抽選に参加(原告団、報道関係に60席割当のため)、越谷グループ5名のうち2名傍聴。

本控訴審は、さる2021年3月18日の水戸地裁判決(被告人日本原電に、運転差止を命じた)に対するもので、原告代理人による、左記三点についての弁論が約1時間にわたりなされた。

れ、避難行動は不可能である。茨城県の原子力災害対策指針、広域避難計画では、地震時を想定した具体的規定の欠落を指摘。地震時には、屋内避難ができない多数の住民が、避難所に避難できず、放射性物質が漂う屋外で被曝を強いられる事になる。これは「原子力災害から国民の生命、身体及び財産を保護」(原子力災害対策特別措置法1条)する事はできないと指摘した。